



化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウム
－私たちの暮らしと化学物質－

International Symposium on the Environmental Risks of Chemicals
- Our Life and Chemicals -

パネルディスカッション
Panel Discussion

化学物質とどう付き合っていくか ～リスクとメリットから考える～

This program will be in Japanese only.

2006年11月12日(日)
釧路市観光国際交流センター

Sunday, November 12, 2006
Kushiro Tourism and International Relations Center, Hokkaido, Japan

2006年11月12日(日) [パネルディスカッション]

14:00	開会挨拶
14:30-16:00	パネルディスカッション 「化学物質とどう付き合っていくか ～リスクとメリットから考える～」
	司 会： 池上 彰 フリージャーナリスト 三井 ゆり タレント
	パネリスト： 青山 博昭 (財)残留農薬研究所 蒲生 昌志 (独)産業技術総合研究所 化学物質リスク管理研究センター 原田 靖之 三菱化学(株) 環境安全・品質保証部 ((社)日本化学工業協会) 北窓 隆子 環境省環境リスク評価室

現在、日本で流通している化学物質は数万種とも言われ、毎年その数は増え続けています。これほど多く使われているのも、化学物質には様々なメリットがあるからです。洗剤、塗料、化粧品、プラスチック、殺虫剤、接着剤など、どれも私たちの暮らしを豊かに、そして便利にしてくれるものです。

その一方で、化学物質には有害性を持つものもあります。空気や水など様々な経路で環境中へ排出され、『環境リスク』を及ぼす可能性もあるのです。また、従来は人の健康への影響が問題となってきましたが、近年では人の健康のみならず生態系全体への影響も大きな関心を集めています。

では、我々は日々の生活の中で化学物質のメリットを活かしながら、リスクを最小にするにはどうしたらいいのでしょうか？

そこで、今回のシンポジウムでは、「化学物質とどう付き合っていくか～リスクとメリットから考える～」をテーマに、パネルディスカッションを行います。

かつては、水俣病等の公害問題への対応にみられたように、化学物質による被害が起きてしまったから、使用規制などの対策がとられることが多かったのですが、今日では、完全な科学的証拠が欠如していることをもって対策を延期する理由とはせず、科学的知見の充実を努めながらリスクに着目をし対策を講じるという、予防的な取組方法の考え方に基づき、被害を未然に防止するための対応に主眼が置かれています。

ディスカッションでは、化学物質の持つリスクに対して、「リスク評価」と「リスク管理」の観点から専門家や現場に携わっている方のVTRをもとに分かりやすく解説しながら、どのようにして化学物質のメリットを活かしながら安全に使っていくかを議論します。

Outline of Panel Discussion for Abstracts

Tens of thousands of chemical substances are currently distributed in Japan, and the number continues to increase every year. So many chemicals are used because they offer various benefits. Detergents, paints, cosmetics, plastics, insecticides and adhesives all make our lives better and more convenient.

Some chemicals, however, are harmful. They may pose environmental risks when discharged into air or water. In the past, effects on human health were the major issue, but in recent years, the impact on the entire ecosystem has also become a focus of attention. How can we minimize the risks of chemicals while taking advantage of their benefits in our daily lives?

In this symposium, the panel discussion will address the topic "How should we get together with the chemicals? - consideration of risks and merits." In the past regulatory measures were often taken only after damage had occurred, as in the case of Minamata disease. Today, emphasis is on a precautionary approach, focusing on risks while working to advance scientific knowledge, and not using lack of conclusive scientific proof as an excuse for postponing action.

We will discuss how we can benefit from chemicals safely, clearly explaining risk evaluation and risk control using a video featuring experts and those who work with chemicals.

出演者一覧



池上 彰
フリージャーナリスト

1973年(昭和48年)慶応大学経済学部卒業、NHKに入局。東京の報道局社会部、警視庁、気象庁、文部省、宮内庁などを担当。
1994年より2005年3月までNHK「週刊こどもニュース」キャスター。
現在、フリージャーナリスト。著書に『そうだったのか!アメリカ』『そうだったのか!現代史』『相手に伝わる話し方』『池上彰の情報力』など多数。



蒲生 昌志
(独)産業技術総合研究所
化学物質リスク管理研究センター
リスク管理戦略研究チーム チームリーダー

1996年(平成8年)東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。通産省工業技術院資源環境技術総合研究所などを経て現職。
環境中の化学物質のリスクを定量評価するための研究に従事。特に個人差や不確実性に注目。「日本における化学物質のリスクランキング」を作成。現在、化学物質のリスクトレードオフ問題や、工業ナノ材料のリスク評価に取り組んでいる。



三井 ゆり
タレント

1968年生まれ。1991年デビュー後、Jリーグ情報番組の司会やスポーツキャスターとして活躍。NHK「サイエンスアイ」司会、CS放送サイエンスチャンネル「三井ゆり旅の科学」など、テレビ出演多数。2001年には、歌手の野口五郎と結婚し、一男一女をもうける。2004年から芸能活動を再開し、NHK「スクスク子育て」、ANB「ボカボカ地球家族」、TX「ソロモンの王宮」など、幅広い活動を続けている。



原田 靖之
三菱化学(株) 環境安全・品質保証部 部長代理
(社)日本化学工業協会 エンドクリンWG委員

1987年(昭和62年)北海道大学農学部農芸化学科卒業。同年、三菱化成工業株式会社に入社。2001年(平成13年)社団法人日本化学工業協会に出向、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの受託事業「リスク評価システム開発」に参加、リスク評価手法の開発・普及に従事。2005年(平成17年)三菱化学株式会社帰任、現職(化学品管理業務)に至る。リスク評価に関する投稿、講演として、「労働の科学」60巻5号(2005年)、「安全工学」vol.45 No.2(2006)、第78回日本産業衛生学会 産業衛生技術フォーラム(2005年)などがある。



青山 博昭
(財)残留農薬研究所
毒性部副部長 兼 生殖毒性研究室長

1978年(昭和53年)名古屋大学農学部畜産学科卒業(家畜育種学専攻)、農学博士(名古屋大学大学院農学研究科)。大学卒業後、財団法人残留農薬研究所において、農薬等の化学物質あるいは遺伝子突然変異に起因する生殖発生異常に関する研究に従事。現在、同研究所毒性部副部長兼生殖毒性研究室長。この間、1994年(平成6年)に日本先天異常学会奨励賞を受賞。1994年(平成6年)から1997年(平成9年)まで、米国国立環境保健科学研究所(NIEHS)留学。



北窓 隆子
環境省環境リスク評価室長

岡山県玉野市出身。昭和61年、香川医科大学医学部卒業。国立長崎中央病院を経て、昭和63年厚生省入省。厚生労働省で疾病対策、生活習慣病対策、労働衛生、精神保健福祉、医療保険の分野を担当するとともに、香川県、宮崎県、青森県で衛生行政に従事。青森県健康福祉部長を経て、平成17年4月より、現職(環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課環境リスク評価室長)。